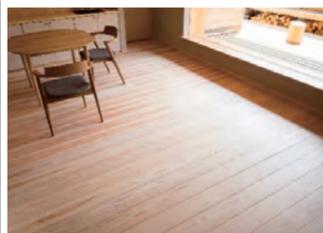


長年茶道教室に使ってきた築44年の平屋の民家を、高齢の茶人一人のための住宅に変えた。耐震、漏水、断熱をクリアーし、床・壁・天井に地域特産の自然素材を集めた居心地の良い住まいは、半戸外空間の暖炉が人々の心を繋いでいる。建具の扱ひも丁寧で美しい。

リフォーム前後の写真



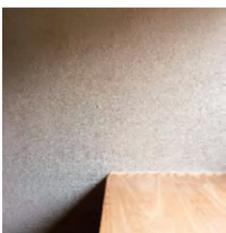
△床材は飛騨のスギ。無塗装とすることで香りと柔らかい質感が残る。



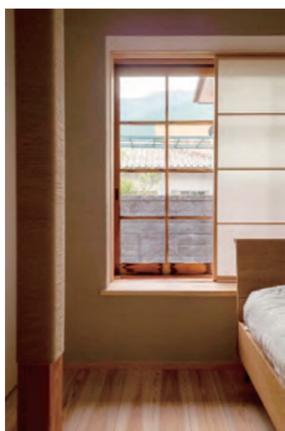
△玄関は南木曾山土たたき風。



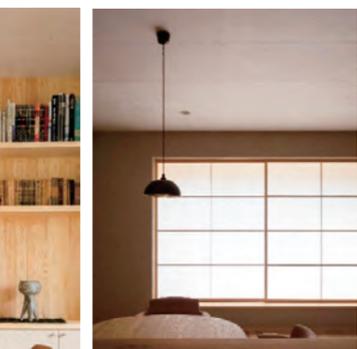
△天井は飛騨の山中和紙。手漉きの質感に温かさを感じる。



△壁の左官仕上げはシラス（火山灰）を使っている。



△ダイニングテーブルは飛騨産のクリ材を使った。ペンダントのシェードは高岡市で作られた真鍮の鋳物。



△水周り 左：居間から脱衣室を見る。中：脱衣室。右：トイレ。窓は既存の木製窓に杉の窓套を付けている。

△寝室 左：既存木製窓に断熱サッシと紙障子を入れている。右：表しになる既存柱は紙紐巻き。

建物外観

上：飛騨産のスギを鏝張り。妻庇とその上の外壁、大屋根は既存のまま。下右：外暖炉に火を入れた様子。炎のゆらめきと薪のはぜる音が心地よい。

△居間 左：全開口できる木製サッシ。座ることのできる立ち上がり軒下空間と内部空間をつなぐ居場所となる。右：紙障子を閉じた様子。拡散された淡く優しい光が差し込む。



△リフォーム前の様子 左：南側外観 中：居間の様子 右：茶室

リフォームの動機／設計・施工の工夫点／施主の感想・満足度／住宅の価値を向上させた内容など

敷地は温泉で有名な下呂市内の旧街道沿いにある。居間の物置になっていた広縁は屋外化し、既存の妻庇とあわせて深い軒下空間を作っている。その軒下空間には外暖炉を設け、友人たちが集ってお酒を酌み交わせる場所とした。個室化されていた水周りはプライバシーに配慮しつつ回遊動線を作り、通気をよくすることでカビや結露を押さえている。素材については昔からその地域にある商圏の内で調達できるものを優先して選ぶようにした。そういった素材を使い、その家が使われていくことで地域の記憶を残していくことができると考えている。現在残した茶室には門下生たちが再び集い、月1回のお茶会がささやかに行われている。

性能向上の特性
 ・躯体劣化部分補強、耐震補強（構造面材等）
 ・床壁天井の断熱改修（ロックウール等充填）
 ・廊下の段差解消

特に配慮した事項
 ・小さい住居ながら、微妙に重心の異なる居場所を多数作ることで訪れる友人や息子、孫たちと施主との心理的な距離感によって自分の居場所を選べるよう配慮した。
 ・視覚的な美しさだけでなく手触り脚ざわり、木の香り、薪の燃える匂いや音など、5感での体験を大切に。

所在地	岐阜県下呂市	新築竣工年	1973年	築後年数	44年	施工期間	90日間
該当工事床面積	59.28㎡	総工事床面積	59.28㎡	該当部分工事費	900万円	総工事費	900万円
居住者構成	65歳以上：1人 / 15～64歳：0人 / 15歳未満：0人						

リフォーム前の平面図



リフォーム後の平面図



リフォーム部位： ■居室/ ■台所/ ■浴室/ ■便所/ ■洗面所/ □廊下/ □階段/ ■玄関/ ■イタリヤ/ □ラッシュン共用部分/ □その他